

直江清隆 (Kiyotaka Naoe)  
東北大学大学院文学研究科

「人工物の価値と責任分散の問題」

技術者倫理では、合理的に問うことが可能な個人の責任が問題にされる。しかし、複雑なエンジニアリングプロジェクトでは、責任の所在を明らかにすることが困難になる場合が多多発生する。典型的な事例としては、事故が非常に複雑な偶然の結果として起り、多くの関係者に責任が分散している場合であろう。この責任分散という問題は、共同行為に関わる共同責任や代理責任に還元されるものではなく、ましてや賠償責任の配分に話が尽きるものでもない。むしろ、誰かに責任を負わせるということの妥当性それ自体に関係している。責任の帰属には、何かを引き起こしたことの他、結果を予見する能力などが条件とされる。しかし、因果関係が複雑に入り組んでいるため、だれかに道徳的な責任を負うのかを特定することが原理的に困難になってしまうのである。

本報告ではこの問題を、所謂「人工物の政治性」の問題の文脈で論ずる。この概念の提唱者 L・ウィナーは、ニューヨークのモーゼスの橋などを例に、人工物の政治性をその設計者に帰着させている。これに対し、近年の解釈では、人工物の政治性をネットワークの中に求めることがなされている。こうした場合、この（負の）政治性に関わる責任はどのように処理されるのであろうか。の文脈で責任分散の問題を検討することにする。